

**JARIP FORUM 2016**

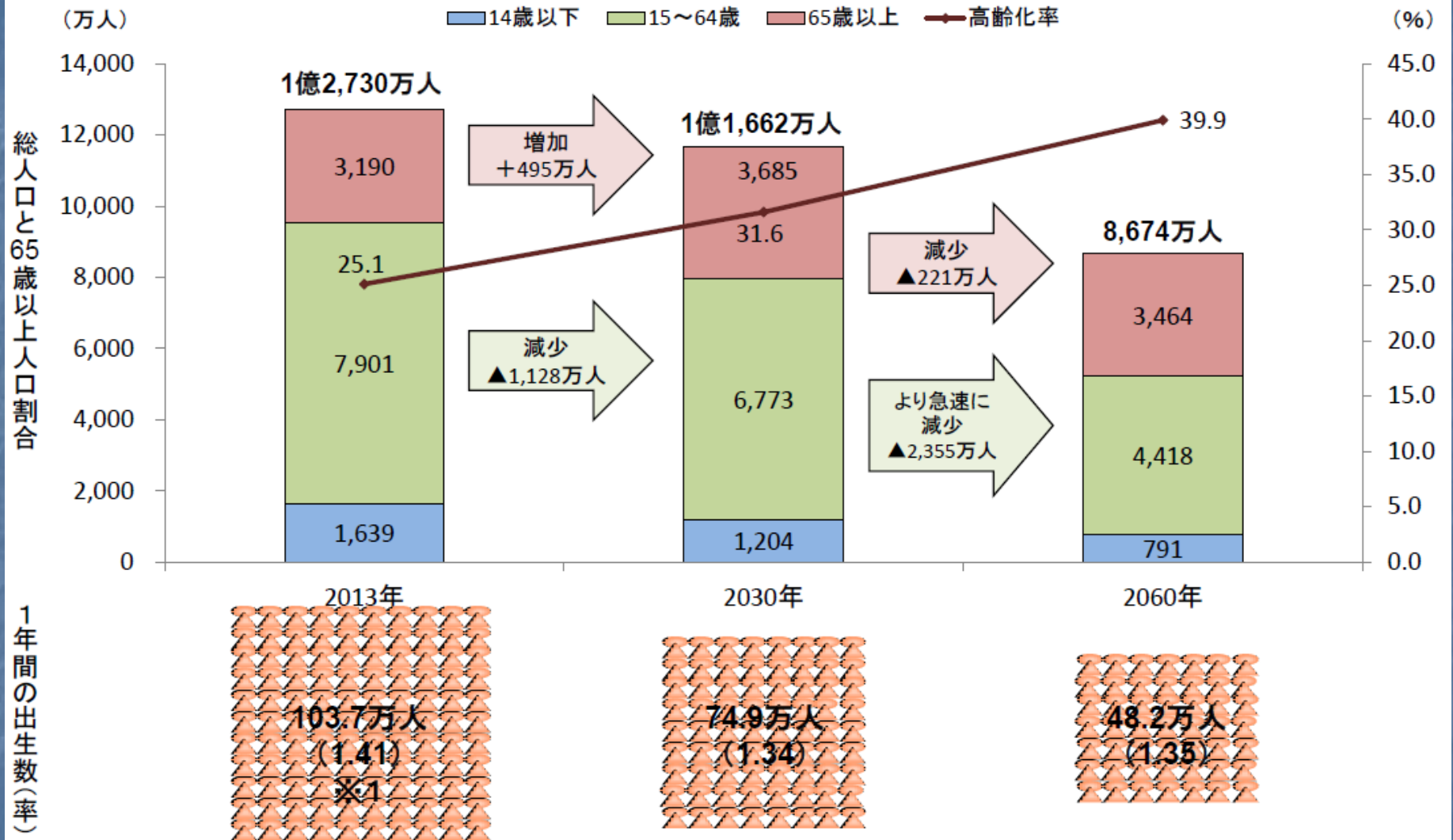
**30年後の日本経済**

**2016年3月28日**

**吉川 洋**

**(東京大学大学院経済学研究科教授)**

# 少子高齢化の進行



(出所) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)  
厚生労働省「人口動態統計」

※1 出典:2012(平成24)年人口動態統計

# CAPITAL

*in the Twenty-First Century*

THOMAS  
PIKETTY

TRANSLATED BY ARTHUR GOLDHAMMER

## NEW REPUBLIC



BOOKS

APRIL 22, 2014

### Thomas Piketty Is Right

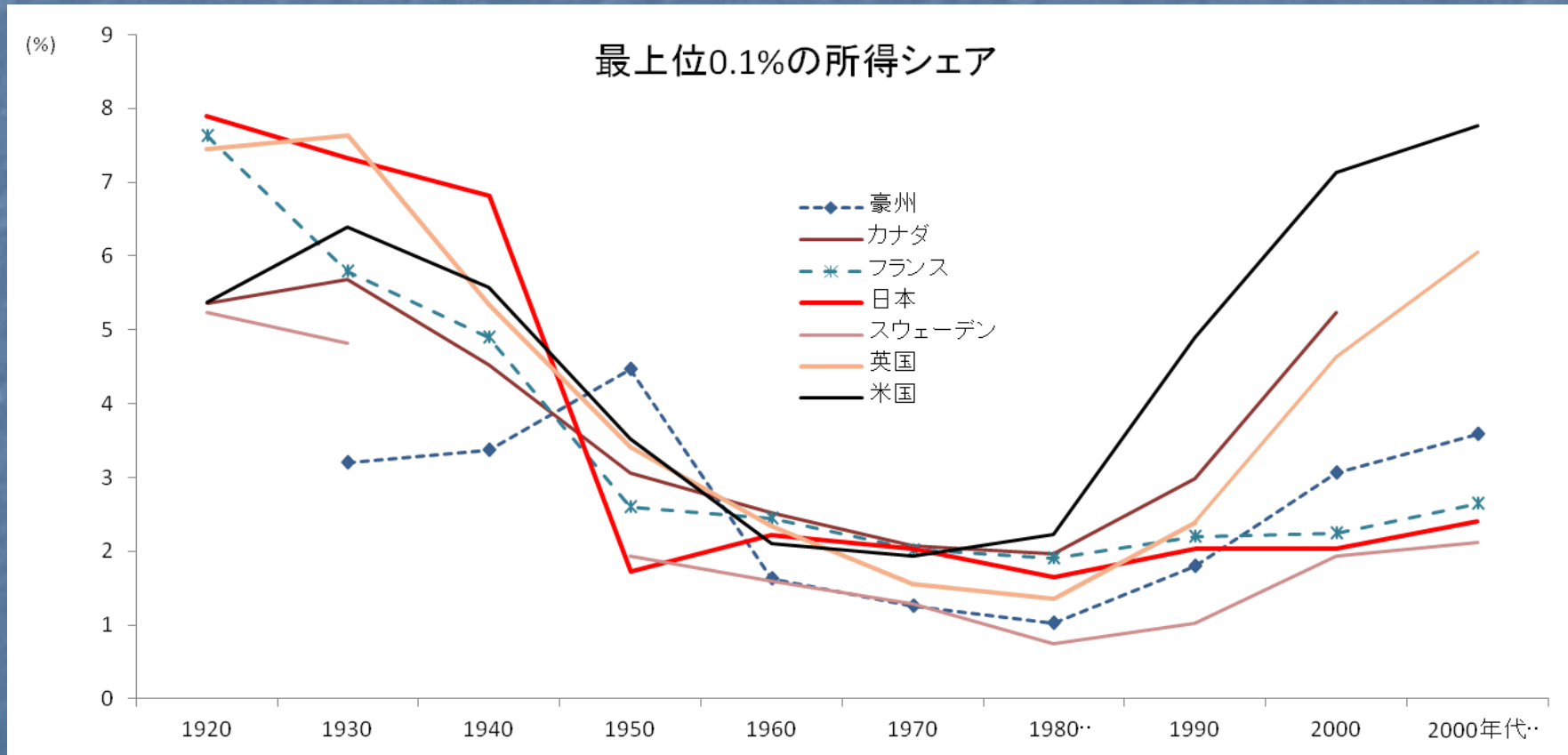
Everything you need to know about 'Capital in the Twenty-First Century'

By [Robert M. Solow](#)

Photo: CHARLES PLATIAU/Reuters/Newscom

# 格差問題への対応について

- 英米加では、近年、富裕層(所得ランキング最上位0.1%)所得の全所得に占めるシェアが急激に上昇。
- 一方、日本、仏、スウェーデンでは富裕層への所得集中が進むといった傾向はみられない。



(注)

1. Anthony B. Atkinson, Thomas Piketty, Thomas and Emmanuel Saez. 2011. "Top Incomes in the Long Run of History", Journal of Economic Literature 2011, 49:1, 3-71. データは <http://g-mond.parisschoolofeconomics.eu/topincomes/> より入手。

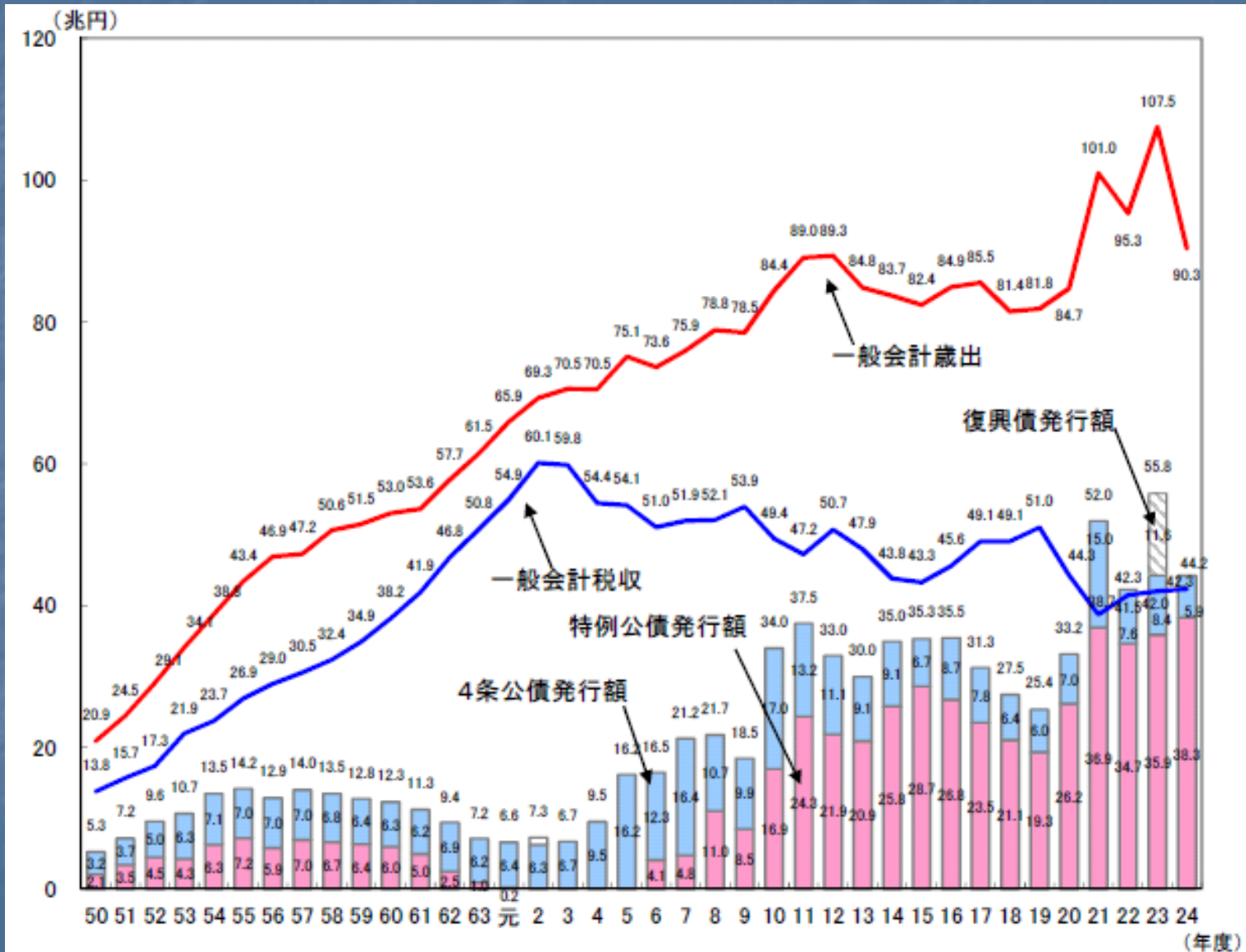
2. 英国の1980年は1981年の値。

3. 日本は2005年、フランスは2006年、豪州、英国は2007年、米国は2008年、スウェーデンは2009年。

4. 所得は、資本所得、事業所得、給与を含み、キャピタルゲインを除く。

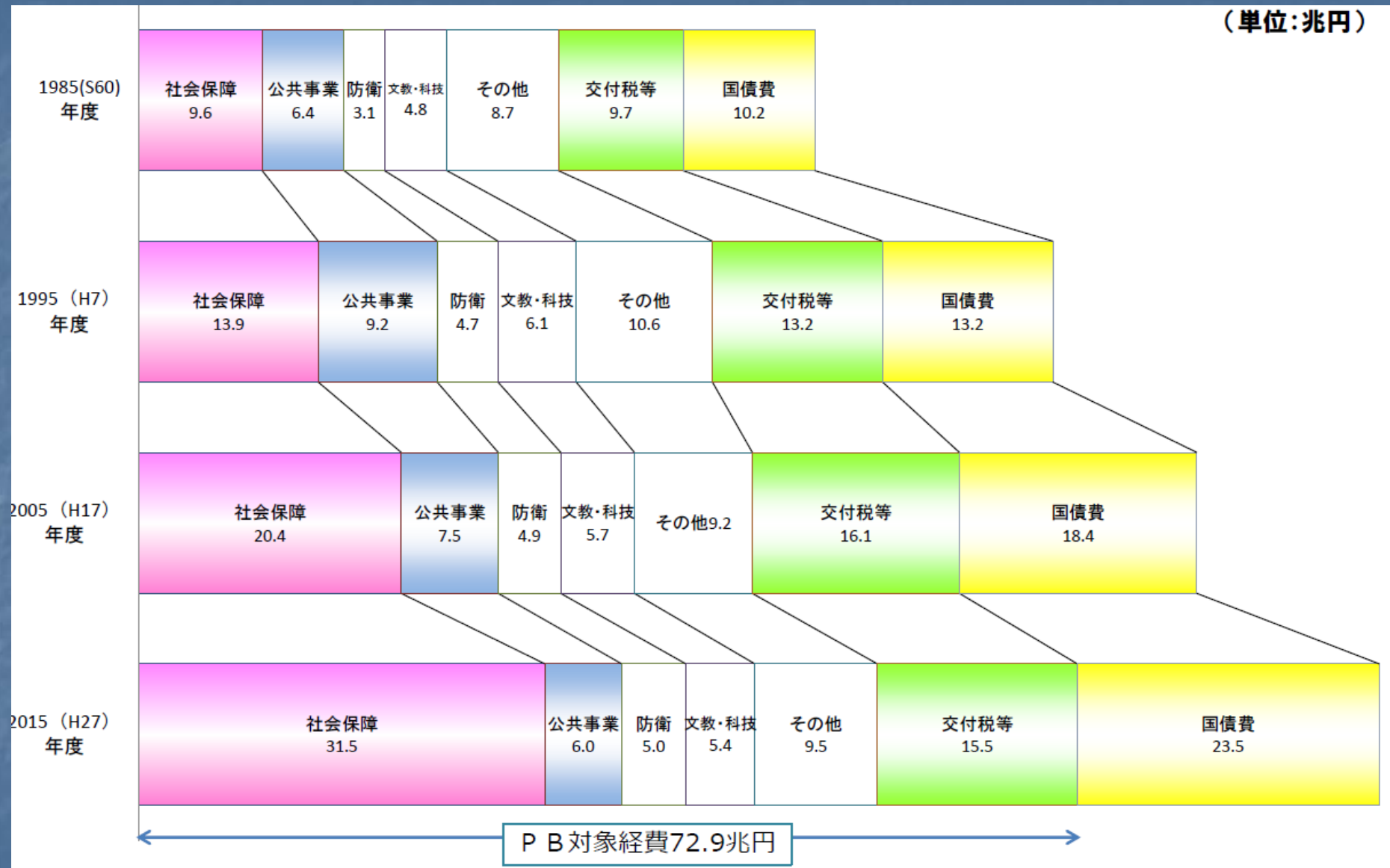
# 持続不能な 財政赤字

# 歳出・歳入の推移(兆円)



# 国の一般会計における主要経費の推移

(単位:兆円)

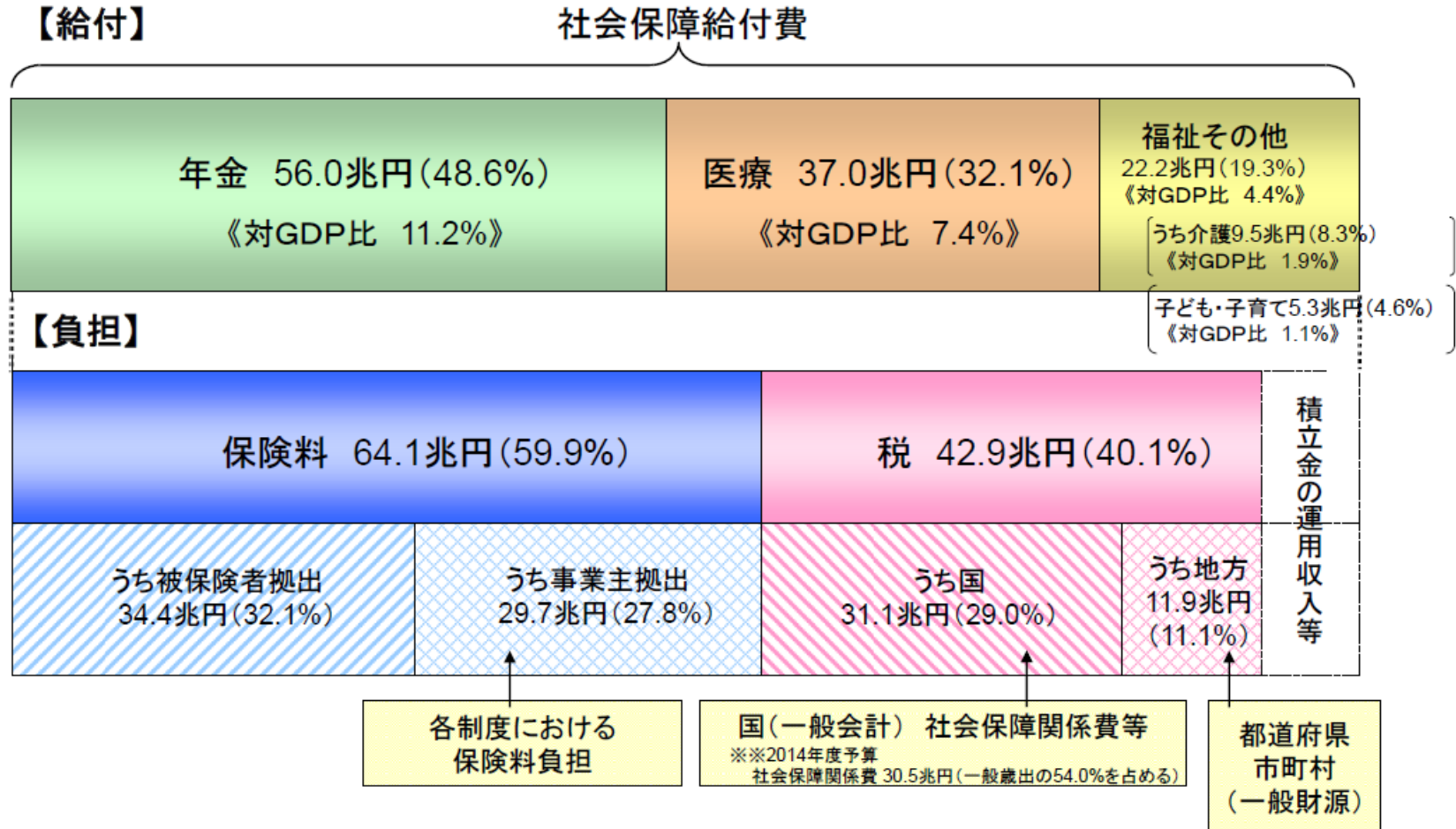


(注)計数は各年度の当初予算ベース。

# 社会保障の給付と負担の現状(2014年度予算ベース)

## 社会保障の給付と負担の現状(2014年度予算ベース)

社会保障給付費(※) 2014年度(予算ベース) 115.2兆円 (対GDP比 23.0%)

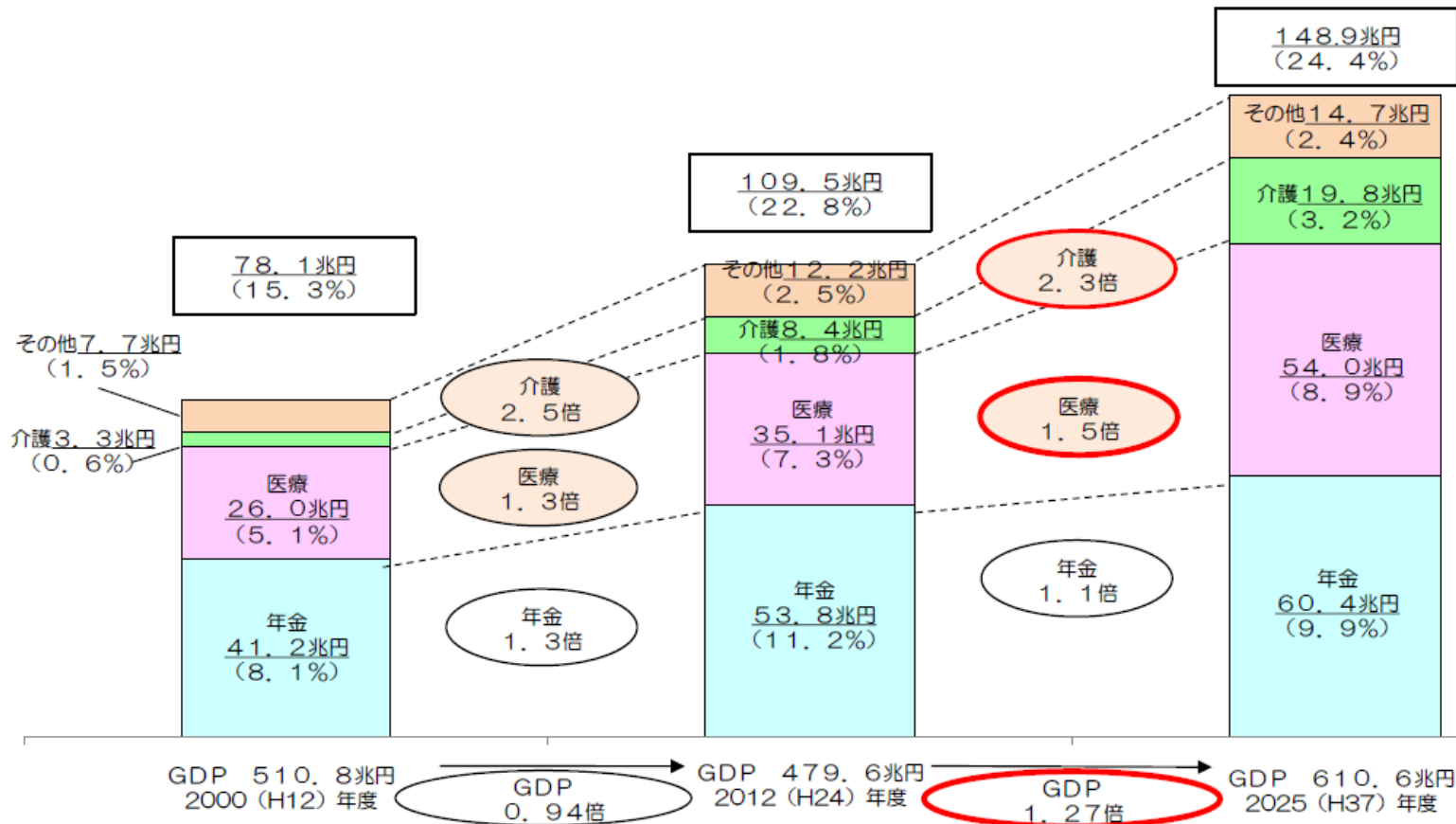


※ 社会保障給付の財源としてはこの他に資産収入などがある。



# 社会保障給付の見直し

- 2025 (H37) 年には、いわゆる「団塊の世代」がすべて75歳以上となる「超高齢社会」を迎え、医療・介護のニーズもピークに向かう。
- 社会保障給付は、高齢化とともに今後も急激な増加が見込まれ、税・社会保険料といった国民負担の増大が見込まれる。特に、医療・介護分野における給付の増加が顕著であり、国民負担（財源調達力）のベースとなるGDPの伸び（消費税収）及び現役世代の負担能力の伸び（保険料収入）を上回って増加の見通し。



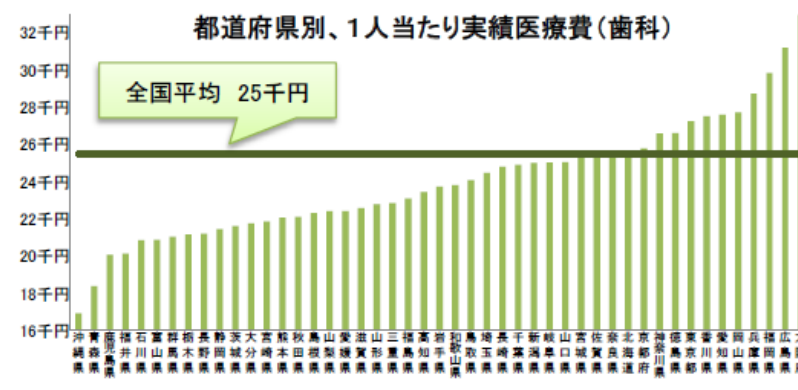
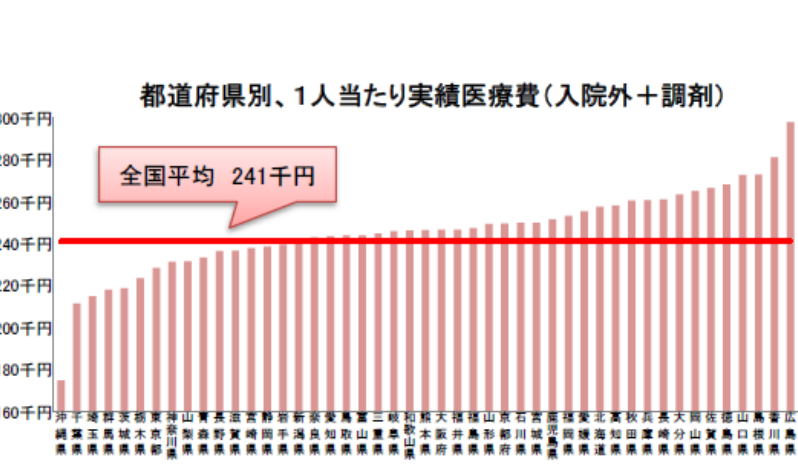
(出典) 2000年度における社会保障給付費は国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」、GDPは内閣府「国民経済計算」による。2012年度及び2025 (H37) 年度における社会保障給付費及びGDPはH24年3月30日厚労省「社会保障に係る費用の将来推計の改定について (H24年3月)」による。

(注1) 表記額は実額、( )内の%表示はGDP比。

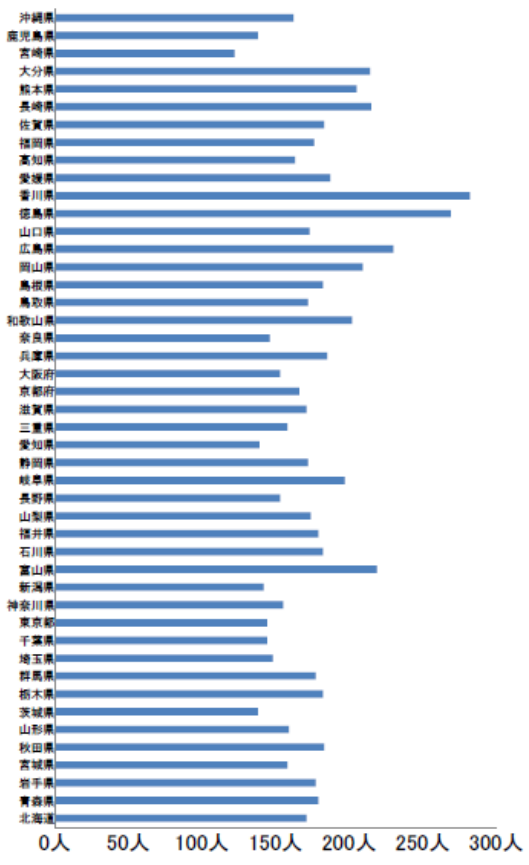
# データに基づく外来医療費の地域差の分析と解消

- 入院医療のみならず外来医療についても、各種既存データから地域差の存在が推察される。今後、NDB等を活用して、その要因等を深く、広く分析した上で、情報を公開するとともに、不合理な地域差の解消などを各都道府県が策定する医療費適正化計画に反映していくことが必要。
- また、保険者がそれらの情報を活用し、重複・頻回受診、重複投薬などを効果的・効率的に防止することが重要。

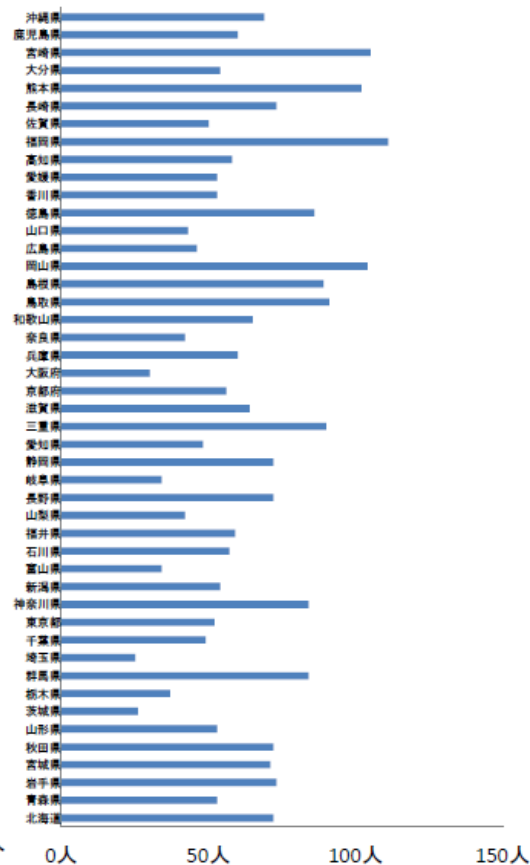
**1人当たり医療費の地域差  
(市町村国民健康保険+後期高齢者医療)**



**糖尿病外来の受療率  
(人口10万人当たり)の地域差**



**気分障害外来の受療率  
(人口10万人当たり)の地域差**

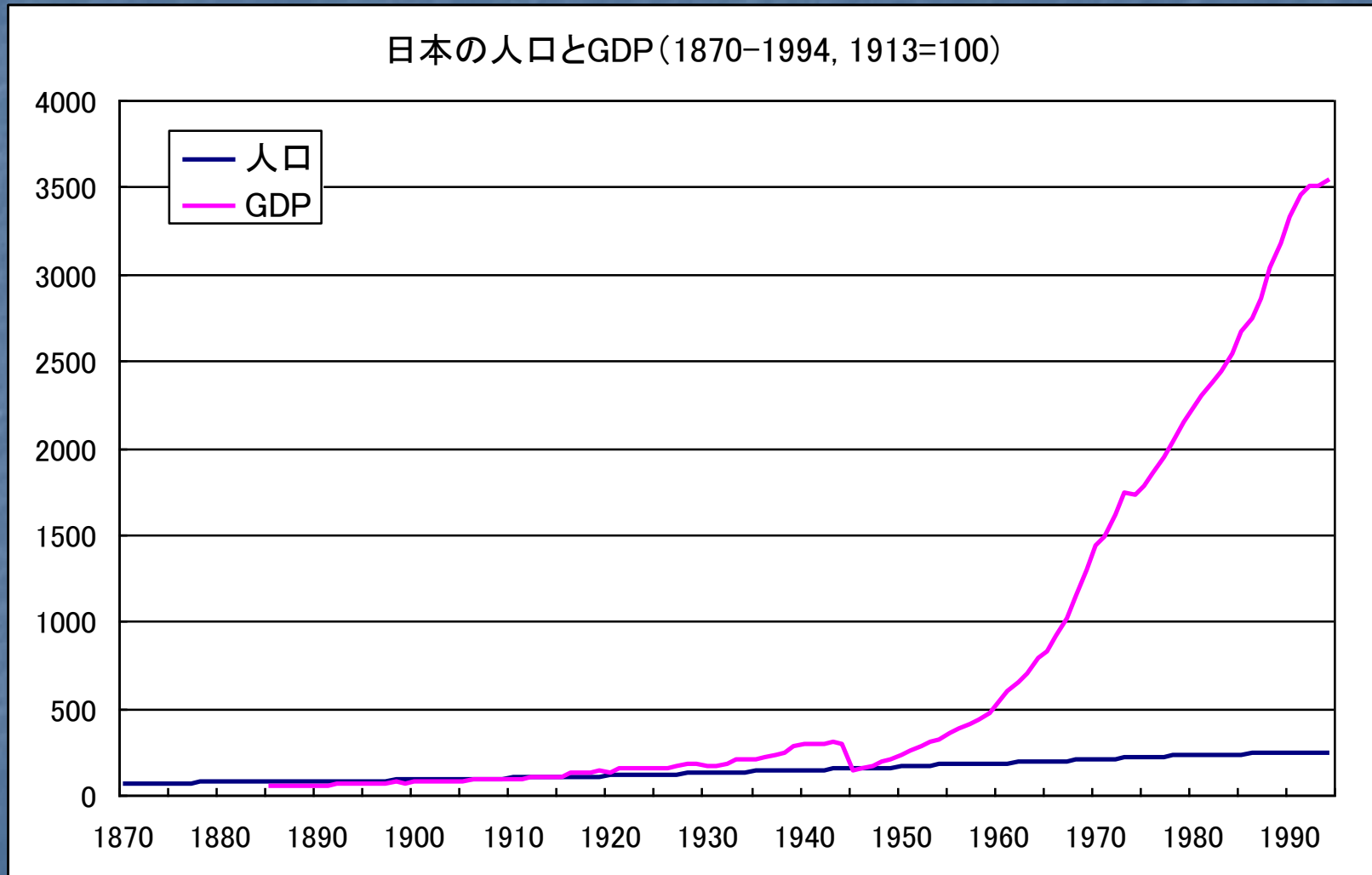


(出典)厚生労働省保険局調査課「平成24年度医療費の地域差分析」

(出典)平成23年患者調査

# 人口減少／ 少子高齢化の下での 経済成長

# 人口と経済成長1870-1994: 日本



# 人口減少率ランキング (2005-2010 年平均変化率)

1	モルドヴァ	-1.06	17	セルビア	0.00
2	ブルガリア	-0.64		ジンバブエ	0.00
	ウクライナ	-0.64	19	キューバ	0.01
4	グルジア	-0.57	20	日本	0.02
5	リトアニア	-0.55			
6	ベラルーシ	-0.47			
	ラトヴィア	-0.47	⋮		
8	ルーマニア	-0.26	⋮		
9	ハンガリー	-0.21			
10	クロアチア	-0.18			
	プエルトリコ	-0.18			
12	ロシア	-0.12	42	フィンランド	0.45
13	ボスニア	-0.11	43	エルサルバドル	0.47
14	エストニア	-0.07	44	デンマーク	0.48
15	ドイツ	-0.06		韓国	0.48
	バージン諸島(US)	-0.06	46	北朝鮮	0.50

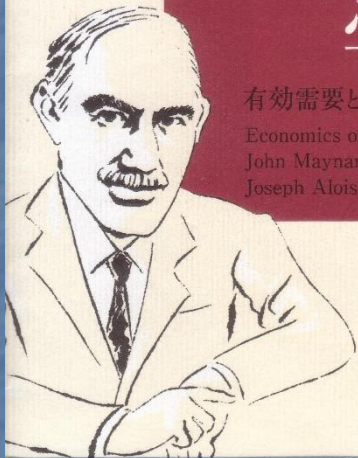
出所： The Economist, Pocket World in Figures 2012 Edition

# シュンペーターの キーワード

“イノベーション”

# いまこそ、 ケインズと シュンペーターに 学べ

有効需要とイノベーションの経済学  
Economics of  
John Maynard Keynes and  
Joseph Alois Schumpeter



吉川 洋  
Hiroshi Yoshikawa

不況期における**有効需要**の  
大切さを説いたケインズ。  
**イノベーション**こそ  
資本主義の原動力だと  
喝破したシュンペーター。  
我々が直面する  
**世界経済危機**の克服に向け、  
天才の遺した「ビジョン」が甦る。

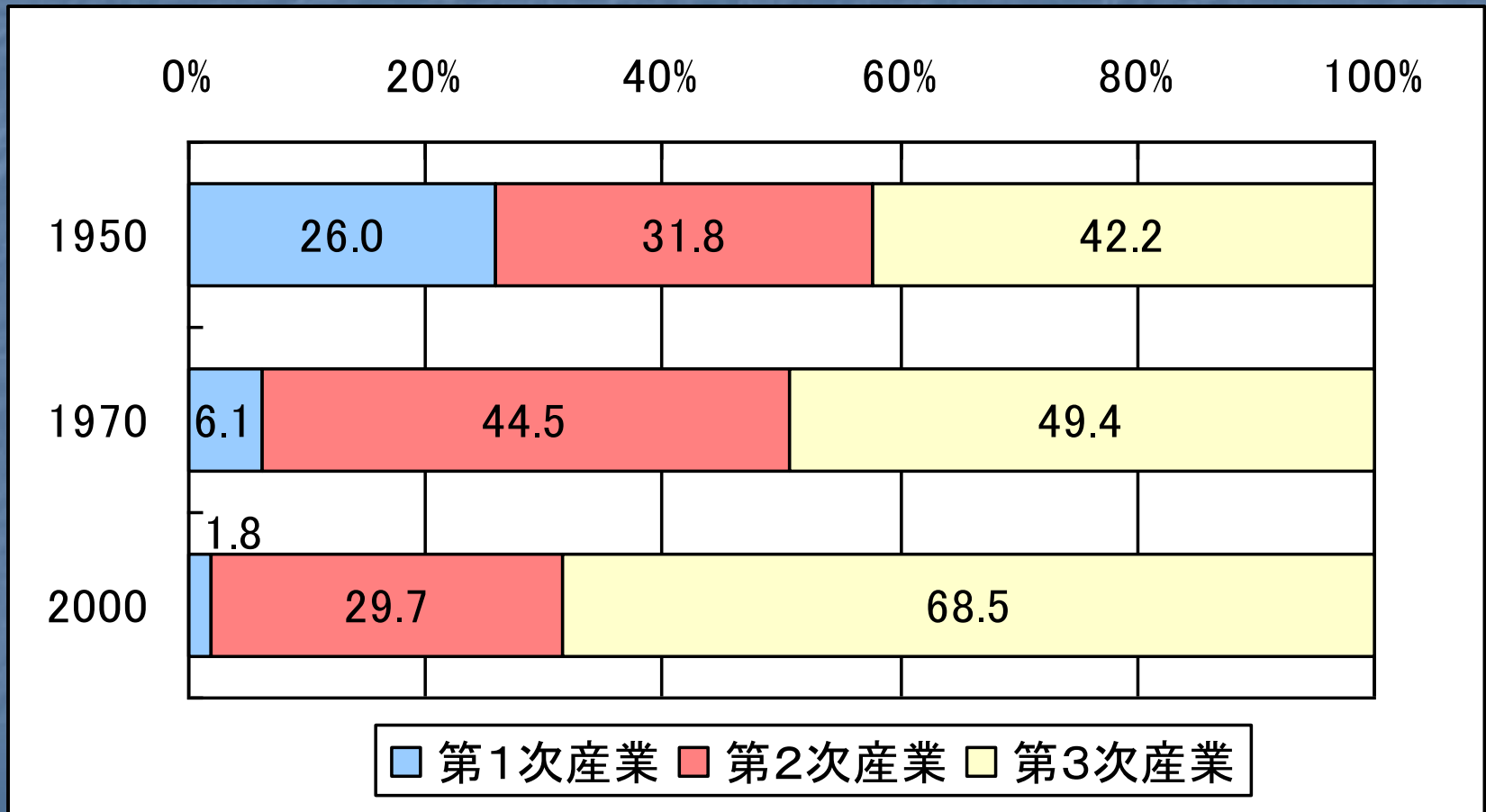
ダイヤモンド社

大恐慌の  
時代を生きた  
二人の  
天才経済学者。  
時代を超え、  
偉大な英知が  
いま再び光を放つ  
!



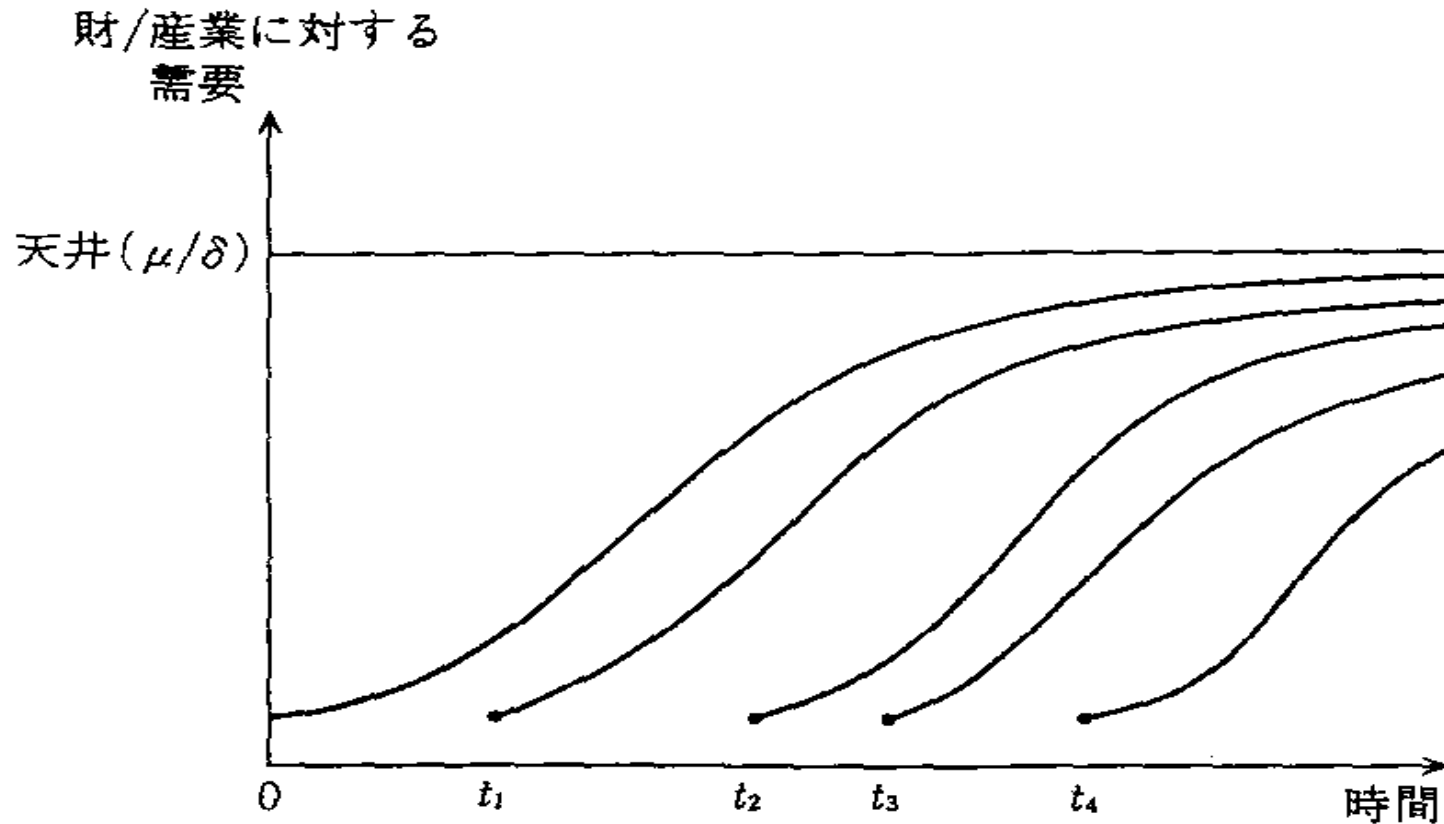
1931年1月30日東大で講演した際、安田講堂前にて。シュンペーターの左は河合栄治郎、さらにその左は東畑精一

# 産業構造の変化





# 新しい需要と経済成長のパターン

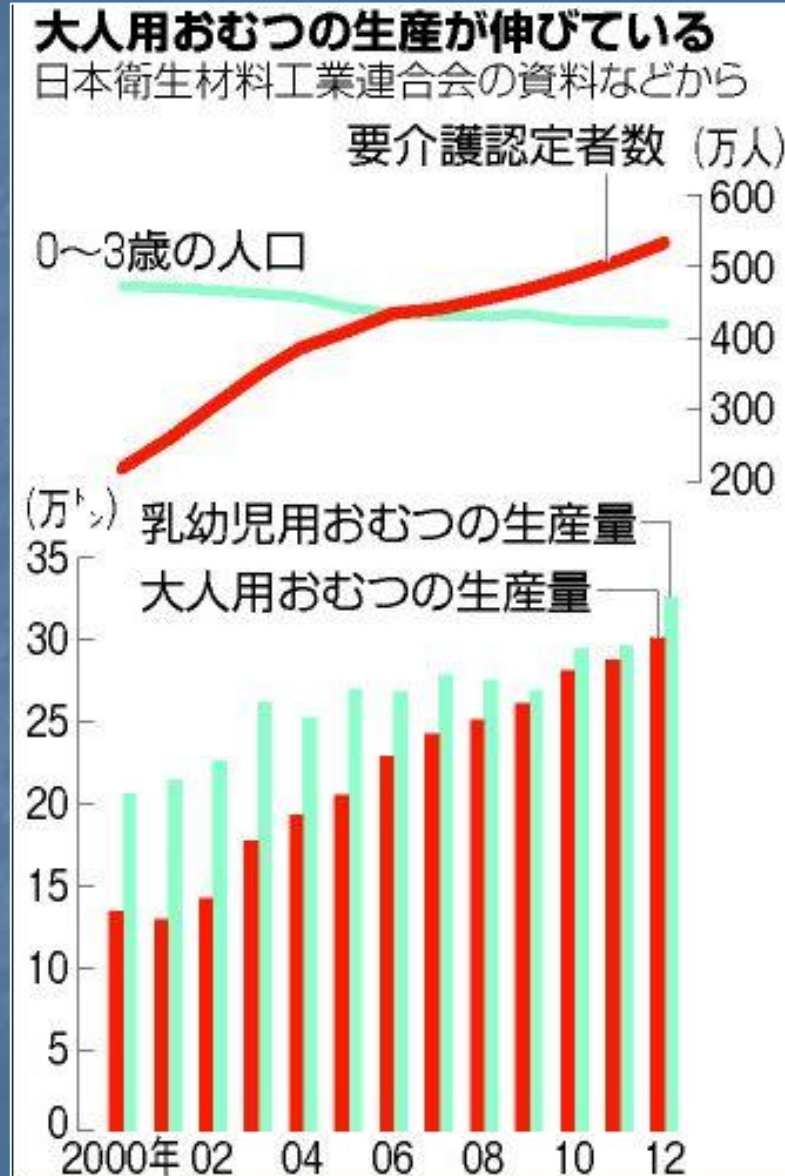


## 新しい需要と経済成長のパターン

注)  $t_1, t_2, t_3, t_4, \dots$ は新しい財/産業が誕生した時点.

出所) Aoki and Yoshikawa[2002].

# 紙おむつの生産推移



# 部門別貯蓄投資差額の推移

制度部門別ISバランス（貯蓄投資差額）をみると、

- 法人企業は1990年代後半以降大幅な貯蓄超過主体となっている
- 家計部門の貯蓄超過幅は長期的に低下していたが2000年代以降プラスの水準で横ばいの動き
- 一方、政府部門は1990年代以降大幅な投資超過となっている

なお、基準改定により、家計の貯蓄超過幅が下方に、法人企業の貯蓄超過幅が上方に改訂されている。

制度部門別の純貸出(+)/純借入(-) 対名目GDP比(%)

